

市の中心部の大聖堂広場から東南にドンコイ通りがサイゴン川岸まで真直ぐ延びている。400m 位の両側に商店が並び、観光客で賑わっている。「サイゴン銀座」と呼ばれていたところである。



近くには写真のコンチネンタルやシェラトン、カラヴェルといった洋風の高級ホテルがある。往時は異国情緒を求める欧州人がホテルに近いこの通りを散策し、ショッピングを楽しんだことだろう。その面影は残っている。



通りの入り口には古い造りの百貨店がある。それに続いて色んな業種の専門店が並び、



並木は「ねむの木」の古木で、羽毛状の葉が広がり、風で柔らかくそよぐ様は南国らしくて良い。時期には淡紅色の羽毛頭状花が咲く。南国で良く見かける並木だ。大きな通りと脇に入る道がある。脇道に民芸品の売り場やベトナムコーヒーを味わえる喫茶店もあり、中には日本語が通じる店もある。

歩道に店の商品が張り出していたり、物売りが店開きしているので、歩きにくい。しかし、これもベトナムの風物詩である。



もの売りは様々だがスナック菓子が多い。どうやら観光客相手というより、働いている店員相手のような。覗いてみるとバナナや小麦粉だんごを揚げて砂糖でまぶしたものだ。日本でいえば石焼いも屋である。

昔はここがサイゴンで一番のショッピング街で上流階級の人達が買い物に来る所であったかも知れないが、いまでは前頁の百貨店の写真の背景に見るように高層の近代的なビルが建ち、そこにはショッピングモールがある。ドンコイ通りに入る手前の大きなビルのモールを見たが、そこはもう日本と変わらない。ブランド品の店が並び、スーパーマーケットから食堂街までである。その中のファーストフードのコーナーに「SANUKI」という店があった。讃岐うどんのぶっかけを出していた。今この中心街の変貌は著しい。ショッピングやビジネスセンターが建設され、オープン



カフェやファミレスもある。ドンコイ通りはノスタルジーを感じる観光客相手の店になって、地元の若い層にはあまり利用されていないようだ。

左の写真は欧米系のオープンカフェであり、右は大聖堂裏にあるショッピングセンターである。もはや戦争時代は過去のものになり、国際化が進んできている。そんな印象を持った。